

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501293
法人名	有限会社 レモンの里
事業所名	グループホーム レモンの里
所在地 (電話番号)	津市神納418-1 (電話) 059-229-8433
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 3 月 19 日(木)

【情報提供票より】 (H21年3月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (1,000,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,334円		

(4) 利用者の概要(3 月 4 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2			3 名
要介護3	4 名	要介護4			名
要介護5	名	要支援2			名
年齢	平均 85.7 歳	最低 73 歳		最高 100 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生協病院・遠山病院・いのうえ心身クリニック・川浪内科・林歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

津市北西部の住宅地と農地の境界に位置した平屋建て1ユニットである。遠くに山々、近くに田園が見渡せ、庭にある果樹園やハウスでは季節の花や野菜、果物の栽培、収穫が楽しめる。建物内部は高い天井と天窓からの採光が心地よい。「健康」と「オープン」の理念のもと「日課を設けず、ルールよりマナーの日常生活」「回想法や未来法をミックスさせた旅行やコンサートの開催」「安全性にとらわれず、人間として生きる希望の具現化として鍵をかけないケア、他との交流等、理念実践に向け取り組んでいる。中でも自然発生的に出来たコーラスがコンサート開催等の発表の場を作ることにより社会参加、張り合いとなり、心身の健康づくりに大きな効果をあげている。生き生きとした表情と心豊かな家庭的雰囲気が印象的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①運営推進会議の取り組み②職員を育てる取り組み③介護計画の見直し④災害対策が更なる取り組みを期待される項目に挙げられていたが、総て見直され、更なる取り組みがなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「初心忘れず」の振り返りの機会となっており、項目によっては更なる向上目標を掲げ支援拡大、充実に向け取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3ヶ月に1回開催され、事業所の実態と取り組み状況、開設5周年事業についてや自己評価、外部評価結果の報告、地域との協力体制について話し合われている。参加者から情報提供・提案・建設的な意見が多く出され、取り組めるものから即取り組み、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に1回定期的な報告や面会時、食事会の機会に、状況変化のある時はリアルタイムに報告している。事業所全体の様子はホームページで詳しく報告されている。又思いを表出できる機会づくりに努めじっくり対話することを心掛けている。出された課題は即検討し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会、老人会、神社祭礼への参加、保育園との相互訪問、子供110番の家として、又介護相談、介護教室、認知症講演の実施やコーラスを通して広く地域の人々と交流している。理念に「オープン」を掲げ、地域の人々と和気あいあいと暮らすことを目指している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分を大切にする健康的な暮らし」を基本理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いかにすれば健康でオープンな生活ができるか常に考え、残存する能力、体力を引き出し生活リハビリを重視した体力づくりや、心身共にオープンにみんな平等で利用者もスタッフも地域の方々とも和気あいあいと一人ひとりの存在価値を認め合える環境づくりに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会、神社祭礼への参加、保育園との相互訪問、子供110番の家として、又介護相談、介護教室、認知症講演の実施やコーラスを通して広く地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「初心忘れず」の振り返りの機会となっており、項目によっては更なる向上目標を掲げ、支援拡大、充実に向け取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回行われており、参加メンバーも自治会、老人会、婦人会、宮司、銀行、ボランティア、行政、家族、利用者と多種多様である。それぞれの立場から情報提供や建設的な意見が多く出され、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席があり連携が取り易い。又県グループホーム連絡協議会の役員であることから話し合う機会が多い。行政と協働しながら、地域の教育機関、福祉関係者とも連携を取り、講演や学生の実習受入れ、障害者の社会参加受け入れ等地域全体の福祉サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書送付に合わせて定期的に報告すると共に、来所時や食事会等の機会やホームページで暮らしぶりが随時詳しく報告されている。状況変化のある時はリアルタイムに連絡を取り報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席や面会時、食事会等、思いを表明できる機会を作ると共に旅行等の機会にじっくり対話することを心掛けている。出された課題は即検討し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者がある場合は、新職員との引き継ぎ時間を多く取り、重複して支援できる体制を取っている。日頃からオープンで来訪者が多いので、笑顔で迎えられ違和感なく受け止められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた教育計画がたてられ更なる資格取得等、目標に挙げられている。外部研修参加の機会も多く、内部でも職員が講師になり研修したり、日々のケアを通して配慮や接し方等職員間で学び合い共有する姿勢がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム協議会の役員として地域のグループホームの現状を学ぶことが多い。市内外の同業者や福祉関係者、教育機関とも交流が広く行われ自己の事業所のみでなく、他事業所も共にサービスの質向上を目指す取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用事前の見学、お試し期間等を設け、音楽や会話を楽しみ食事を共にする等、雰囲気を感じ徐々に馴染める機会を作っている。「ここえとこやな」「今晚泊まってくわ」等の反応をみながら利用へとつなげている。本人の希望と家族の希望のすりあわせも大切にしながら急激な環境変化へのダメージを防ぐ工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の体力に応じて日常的作業を協働している。希望する役割を取ることで、必要な人としての自己の存在を確かめられる支援をする中、互いに教え助け合う関係が自然に生まれている。利用者間でもこの姿が見られ共同生活者として「お互い様」の協力体制ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の利用者基本台帳の情報や日々の生活の中でみられるサインや言動から意向や希望を汲み取れるよう常にアンテナを張りめぐらせている。回想法や未来法(希望や目標)をミックスさせながら本人の意向を大切に希望を叶える事が「元気の源泉」との考えから実現に向け努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員が身体面、生活面での現状や能力をアセスメントし、QOL(生活の質)向上のための目標を掲げ、具体的な援助方法や関わりのポイント等自由に意見を出し合い、集約し計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月に1回の見直しと評価を行い記録している。又計画だけでなく、コンサートやふるさと訪問、旅行、就寝前の読経等全体の評価も行い計画に活かしている。又状態変化や新たな希望、意向のある時はリアルタイムに見直し変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が歌うコンサートの開催、ふるさと訪問や旅行（中国、オランダ、北海道、沖縄等）演劇や音楽鑑賞、食事会等、家族やボランティアの参加協力を得て要望実現への支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により利用前からの、かかりつけ医の継続に努めると共に月に2回の協力医の往診がある。又認知症専門医が隣接しており、連携を密にしている。「最良の内科薬は良い食事」「最良の安定剤は良い環境」の考えで、減薬に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族の希望で「終末期延命治療はうけない」方向で入院を避け、事業所で看取る方針で話し合っている。医師、職員も方針を共有している。ただし家族の意向変化の可能性もあるので、その時々話し合う方針である。葬儀についても、家族葬や音楽葬、ホーム葬等、家族と話し合い、「おくりびと」の役割を果たしたい思いがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「尊厳とは目の輝き」という職員の言葉を大切に、職員対利用者、利用者対利用者で誇りやプライバシーを損ねることのないように気配り、配慮している。「人間として生きる希望の具体化」を方針としていることから伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課がなく「ルールよりマナーの生活」を心掛けている。起床や食事、入浴等個々のペースで行われており、歌や散歩等強制はしない。新聞を読む、ピアノを弾く、ハミングする、談笑、お茶を飲む、庭を歩く等、自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕入れ、下準備、後片付け、上膳、下膳を協働している。自家菜園でとりたての新鮮野菜を使ったり、公設市場で仕入れた魚は目の前でさばかれ、お刺身や酢の物として調理されている。食堂やテラスの思い思いの場所で、利用者、職員が共に同じ物を食べ会話も弾み楽しい食事風景である。市内、大阪、奈良、名古屋へ御当地グルメを楽しむ外食もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回は入浴できるよう支援している。一人ひとり終了と同時に掃除、湯の入れ換えをしている為、誰もが一番風呂である。入浴時間や回数は希望やタイミングに合わせて、臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯、新聞や郵便受け、食事作りや後片付け、来客の出迎え見送り、金魚の餌やり、花の水やり等の日常生活作業に自発的に参加することにより役割ができています。又コンサートや旅行、歌舞伎見物、DVDでの映画会もある。オープンな生活そのものが楽しみや気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テラスやガーデンで外気に触れながら四季折々の花鳥風月を楽しむことが日々行われている。又散歩、買物、喫茶店、博物館、他事業所訪問、家族との外食、芝居見物等意向に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	オープン理念であり、安全性にとらわれることなく、人間として生きる希望を具現化することが支援の大きな目標になっている。「鍵をかけることは人間関係の破壊であり信頼関係を失う」という考えがあり、部屋、玄関等、総ての出入口に施錠はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自主的な訓練の実施、消防署の点検を受けている。一時避難場所はビニールハウスと定め、二次避難については周辺の災害状況を見極め、冷静な行動が取れるよう地図を作り経路等話し合っている。水、食品の備蓄もあり、近隣に住む職員に協力依頼している。	○	夜間を想定した訓練の実施や地域の方々への協力についてどのような役割(誘導か、避難した人の見守りか、消火活動か等)で協力して頂くのか具体的に話し合われる事や、ビニールハウス内の照明や懐中電灯の設置等考えておられるので実現に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「最良の内科薬は食事である」の考えのもと、食事量やバランスはもとより安全性、栄養価、塩分、糖分、質に配慮した食事が提供されている。個々の状況に応じ、医師とも相談の上、カロリー、水分補給に努め、健康管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や雑誌、新聞等が随所に置かれ、静かな環境づくりのためテレビはない。居間、食堂に続くオープンテラスは遠くの間々や田畑、庭の木々が見え四季折々の季節感がある。食事やお茶ができるスペースでもあり開放感がありくつろげる。廊下や台所の天井が高く天窓からの採光もよく圧迫感がない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は南・西に配置されカーテンを開けると果樹園や遠くの間々、田畑の景色が見え利用者のお気に入りになっている。個々に好みの家具や寝具、調度品、絵画、写真集を持ち込み個別性のある居室になっている。		